

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

森は、人間の生活、生産の場であると同時に、鳥や動物たちの棲息地せいそくちでもある。

鳥や動物たちは、自分たちに適した場所を探して森の中に棲すむ。それが、時に、人間の生活空間あるいは生産の場所と重なりあう場合がある。「ごんべえとからす」の話ではないが、鳥や動物たちの行動が、人間の生活と衝突する場合もしばしば生ずるのは事実である。

鳥や動物たちの行動については、まだまだ人間の知らない部分の方が多い。そのために鳥や動物たちの行動の結果に対して「受忍じうにん」したり、「歯止め」をかけたりするに当たって、[Ⓐ]きつちりとした一線を引くことが難しい。そのことが鳥獣害の処理をめぐって、人間社会の中でいろいろなトラブルを起こす因ともなる。

鳥にしても、害虫を食べてくれる場合には人間は歓迎する。樹木に害を与える鱗翅目りんしほくの昆虫の幼虫（毛虫）を好んで食べるのは、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス等のトケン科の鳥であり、卵のうち食べるのは、カラ類（シジュウカラ、エナガ等）の鳥である。これらの鳥は、樹木を虫害から守ってくれる益鳥であるから、人々はそれらを追い払うことはしない。

問 傍線部①「きつちりとした一線を引くことが難しい」とあるが、「難しい」のはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 森は人間の生活や生産活動の場であると同時に鳥獣の棲息地でもあるので、人間と鳥獣とが共存する場所と、鳥獣を排除して人間だけが住む場所とを分けることができないから。

② 鳥獣の生態にはまだ不明な部分が多いので、人間が森で生活や生産活動をするに際して、鳥獣の行動の何を害とみなし、何を益とみなすかは、簡単に決められないから。

③ 鳥獣の行動が、森における人間の生活や生産活動に及ぼす影響に対して、それを害とみなす「歯止め」派と、自然保護の立場に立つ「受忍」派との対立はなくならないから。

④ 人間が鳥獣の棲息地を侵している問題と、鳥獣の行動が人間の生活に影響を及ぼす問題とは、もともと土俵の違う問題なので、どちらを優先して考慮すべきかを決められないから。

⑤ 人間は鳥獣の生態について知っていることが少ないので、森における人間の生活や生産活動にとって有害とわかっていても、鳥獣の行動をどう制限してよいのか判断できないから。